

麦作情報 No. 3

令和2年2月21日
西松浦農業改良普及センター

1. 気象概況

月	半旬	平均気温		最高気温		最低気温		降水量		日照時間	
		平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 mm	本年値 mm	平年値 時間	本年値 時間
2月	1	5.0	6.1	9.7	11.8	0.6	1.5	9.8	0.0	20.2	34.8
	2	5.7	5.8	10.4	9.6	1.0	1.6	12.2	4.0	21.9	19.7
	3	6.2	11.6	11.0	17.6	1.5	6.6	16.8	45.5	22.5	22.7
	4	6.5	6.1	11.3	11.7	1.8	1.4	19.6	17.0	22.0	20.6
	5	6.8		11.5		2.1		20.5		21.6	
	6	7.1		11.9		2.4		12.8		13.1	
3月	1	7.4		12.3		2.6		22.3		22.4	

- 平均気温は、平年と比較すると1月2半旬、1月5半旬および2月3半旬は5℃ほど高く推移した。また、その他の期間についても平年と比較し1～3℃程度高く推移した。
- 降水量については、12月中下旬の断続的な降雨や1月下旬と2月3半旬のまとまった降雨により平年に比べかなり多くなった(1/1～2/20までの降水量：平年比189%)。
- 福岡管区気象台の1ヶ月予報(2月20日発表)：平年に比べ晴れの日が多い予報。
向こう1か月の平均気温は、高い確率80%。降水量は平年並または少ない確率ともに40%の予報。日照時間は、平年並または多い確率ともに40%の予報。

2. 生育概況

- 気温が平年よりかなり高く推移しているため、生育がかなり早く、平年より3週間～1か月程度生育ステージが進んでいる。
- 断続的な降雨により圃場に長時間滞水した圃場では、下葉の黄化などの湿害が見られている。

《麦類の生育状況(2月20日時点)》

- 11月中旬～12月上旬に播種された圃場では、現在茎立ち期を迎えている。
- 12月中旬頃に播種された圃場では、節間伸長期を迎えている。

幼穂形成始期(麦5.5L～6.0L頃)

3. 今後の管理

1) 肥培管理

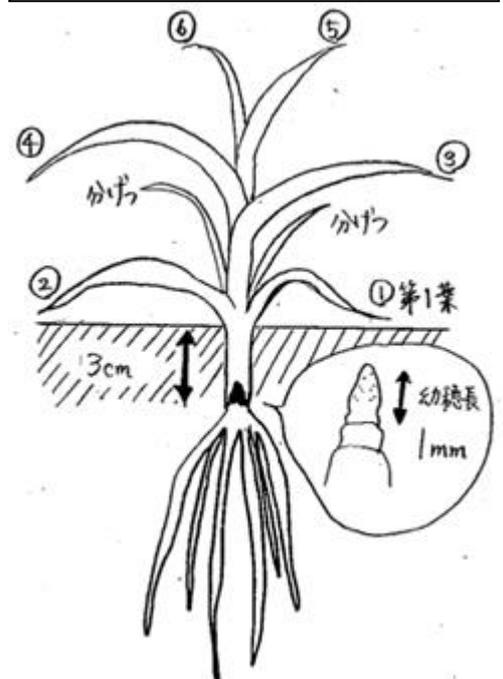
- 播種時期により管理が異なるため、下記を参照にする。
※地力がある過繁茂傾向の圃場(堆肥連用田など、令和元年産麦で倒伏した圃場等)では、麦の生育量および葉色から判断して施用量を減じるなど調整を行う。

①11月中下旬播種

- 茎立ち期を迎えている。
麦踏みは行わず土入れ中心の管理とする。

②12月上旬播種

- 茎立ち期を迎えている。
穂肥を施用していない圃場では、すぐに穂肥を施用する。
麦踏みは行わず土入れ中心の管理とする。



③12月中旬播種

→節間伸長期を迎えている。

すぐに穂肥の施用を行う。麦踏みは草丈約30cmに達するまでは可能。

ハーモニー75DF水和剤はもう散布できない。

④11月下旬播種

→今年は生育が早いため可能な限り麦踏みや土入れを行い凍霜害の予防に努める。

2) 排水対策

・根腐れや湿害防止のために、溝（畦間）をまくら地までとおして、排水溝の整備を入念に行う（障害物を取り除く、溝を切りなおすなど）。今後、降雨が続くため、圃場内に滞水がみられないように注意する。

・麦類の発根力は、最高分けつ期～節間伸長期（概ね7～8葉期頃）が最も高いとされている。

根の活力維持のためにも、排水対策は重要な作業である。

排水溝の整備の実施により、麦の根の活力維持に繋げる！！



3) 麦踏み、土入れ

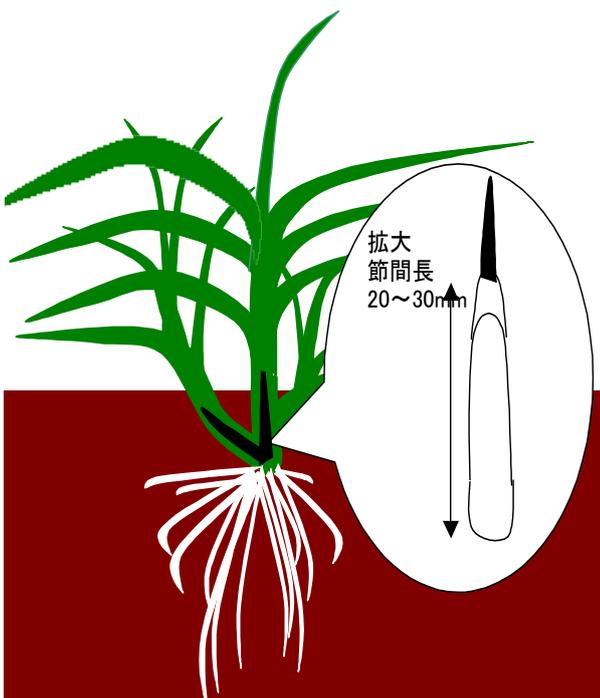
・1月中旬からの断続的な降雨により、畝間に長時間帯水している圃場もみられる。排水対策が不十分な圃場については、溝をつなぐなどの排水対策を徹底する。

・必ず圃場が乾燥した状態（畝間が白乾している状態）で、麦踏み（3葉期以降から）や土入れ（5葉期以降から）を実施する。

・土壤水分が高い状態で麦踏みを行うと、土がしまり湿害による根痛みを起し、マイナス要因となる。（土を手で握り、湿った状態であれば、無理な麦踏みは避ける。）

・草丈が30cm以上になると、麦踏みを行うと完全に立ち上がりきれず、その後倒伏しやすくなるため麦踏みは行わず、土入れ中心の管理を行う。

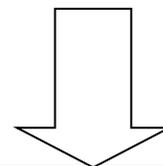
・麦踏み、土入れの効果については、麦作情報 No.2 を参照。



茎立ち期

【節間伸長始期】

茎の節間が5mmとなったとき（葉齢は7葉期）。節間が伸長し、幼穂が地上部近くに上がってくる。



【茎立ち期】

節間伸長期から2週間程度経過した時で、節間が2cmに達し、幼穂が地上部に上がってきたとき。

この時期になると麦踏はできない。

幼穂凍死の危険が高くなる。

茎立ちが早いときなどは、幼穂保護のため土入れを実施する。

4) 雑草防除

- ・11月上中旬に播種された圃場ではスズメノテッポウや、近年問題となっているカズノコグサやタデ類、トゲミノキツネノボタンなどの発生が散見される。
- ・土入れによる雑草防除を実施するとともに、常に圃場の雑草発生状況を把握し、除草剤の処理時期を逸しないよう対策を徹底する。
- ・除草剤効果を保つため、雨前を避けて散布する。(天気予報を確認してください)
- ・カラスノエンドウは収穫時に混入する危険性が高いため、毎年発生している圃場や、すでに発生がみられる圃場では、アクチノール乳剤(穂ばらみ期まで使用可能)による防除を徹底する。
- ・ハーモニー75DF水和剤のカズノコグサへの使用時期は「麦1葉期～節間伸長前まで」なので、使用の際は麦の生育状況に注意する。
カズノコグサは、スズメノテッポウに形態が似ており、防除は播種直後処理剤と「ハーモニー75DF水和剤」(カズノコグサが1～3葉期までに)との体系処理で行う。

※カズノコグサとスズメノテッポウの識別については、麦作情報 No.2 を参照。

★除草剤散布後は、以下のことに注意する★

- ①「麦踏み」は、除草剤散布後に薬剤の影響で葉が黄色くなっている場合、麦へのダメージが大きいため、散布後1週間は控える。同様の理由で、麦踏直後の除草剤の散布も控える。
- ②「土入れ」を、除草剤散布後すぐ行くと、雑草の蒸散作用が抑制され有効成分の根根吸収が妨げられるので散布後1週間は土入れを控える。(特にステージの進んだ雑草の場合は十分に間隔をあける)

○播種後除草剤が散布できていない圃場や、雑草の発生がみられる圃場では、除草剤の処理時期を逸しないように早めに茎葉処理剤を施用する。

農薬名	効果のある雑草	使用量	希釈水量	使用時期	総使用回数	使用上の注意事項
ハーモニー75DF水和剤	イネ科雑草 ・スズメノテッポウ ・カズノコグサ 広葉雑草 ・ヤムグサ ・アザミ ・ハコ	5～10g/10a	100L/10a	播種後～節間伸長前 ※カズノコグサに対しては、 <u>麦1葉期～節間伸長期</u>	1回以内	<ul style="list-style-type: none"> ・播種後にハーモニー細粒剤Fを散布された圃場では使用できません。 ・<u>薬害が生じやすいので周辺作物への飛散に注意。</u> ・使用器具の洗浄を入念にし、他作物との併用はしない。 ・スズメノテッポウ、カズノコグサには効果が弱い(抑制するが枯死しない)
アクチノール乳剤	広葉雑草 ・ヤムグサ ・カズノコグサ ※イネ科雑草には効果がない	100～200ml/10a	70～100L/10a	穂ばらみ期まで (雑草生育初期)	2回以内	<ul style="list-style-type: none"> ・広葉雑草多発田に使用し、ヤムグサ、カズノコグサに効果が高い。 ・湿度に左右されず使用できる。 ・散布後、20日程度で枯死。 ・接触剤なので、必ず雑草の茎葉に散布する。 ・<u>気温が高い日の散布は薬害が生じるので注意が必要。</u>

5) 病害虫防除

○網斑病

- 近年、網斑病の感染が拡大傾向にあるため、薬剤防除を徹底する。
- 本年は、気温が高く推移しており、生育が進んでいるため網斑病の発生が例年よりかなり早く、さらに多発傾向にある。特に11月中旬播種などの早播きの圃場ではその傾向が強い。
- 網斑病が多発した場合、収量が3割減収したとの報告がある。
- 現在、網斑病の多発生がみられる圃場においては茎立ち期にチルト乳剤、出穂期にシルバキュアフロアブルによる防除を行う。

(※チルト乳剤の大麦に対する使用回数は1回までなので、**農協のヘリ防除を利用する場合は、出穂期頃のチルト乳剤散布となるため使用回数制限により茎立ち期にチルト乳剤の散布はできない。その場合は、茎立ち期にシルバキュアフロアブルを散布するなどの対応を検討する。**なお、チルト乳剤およびシルバキュアフロアブルの使用にあたっては、網斑病に対する無人航空機による散布の登録はないことに注意する。)

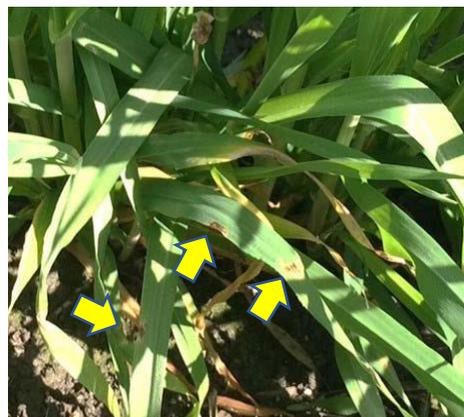


写真1 大麦網斑病の病斑



写真2 大麦網斑病の病斑

【防除薬剤使用基準】 (対象作物は大麦)

薬剤名	適用病害虫	希釈倍数	10aあたり 散布量	使用時期	使用回数	散布方法
チルト乳剤 25	網斑病	1000倍	60~150L	収穫21日前まで	1回	散布
シルバキュアフロアブル	網斑病	2000倍	60~150L	収穫14日前まで	2回	散布

6) 鳥獣害対策 (カモによる食害)

酸性障害については、麦作情報 No.2 を参照。
(西松浦農業改良普及センターHP にも掲載しています。)

7) 酸性土壌による障害

酸性障害については、麦作情報 No.1 を参照。
(西松浦農業改良普及センターHP にも掲載しています。)

R2年産麦類生育期間気象グラフ

アメダス観測値 (伊万里)

西松浦農業改良普及センター

